

令和2年度 【加古川市】認知症地域支援推進員活動報告

【市町名】の認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：6名

2 認知症地域支援推進員の役割

- 担当地域内の認知症の人やその家族を支える取組みを進める。
- 認知症早期発見・早期受診、早期ケア体制を実現するため、センターやサロン等で早期発見チェックを実施し、疑いのある人にかかりつけ医や認知症相談医への受診を勧める。
- 認知症の人や家族が安心して生活できる地域づくりのため、行政、認知症疾患医療センター、医療機関、介護事業所等の関係機関と連携を図る。

報告者氏名：加古川市 高齢者・地域福祉課 松尾 優
地域包括支援センター かこがわ南 岡村匡城

【市町名】 認知症施策全体図

項 目	内 容
早期発見、早期受診、早期ケア体制の充実	認知症早期発見チェックの実施
	認知症初期集中支援チームの設置
認知症地域連携体制の強化	認知症地域支援推進員の配置、連絡会の開催 加古川認知症連携協議会への参加 東播認知症教室の支援 認知症疾患医療センターとの連携
認知症の人や家族を支える地域づくり	認知症サポーターの養成支援 認知症キャラバン・メイトの活動支援（連絡会・養成研修）
	認知症の人や家族、サポーターの会などへの支援 認知症カフェへの支援
	認知症なんでも相談会の開催
認知症見守りネットワークの充実	認知症見守りSOSネットワークの実施 見守りカメラの利用促進
若年性認知症施策の整備	若年性認知症の人や家族、サポーターの会などへの支援
認知症に対する正しい知識や理解の普及啓発	認知症イベント（講演会・映画会等）の開催



テーマ番号< ⑤ >若年性認知症の人と家族への個別支援

- 関わりのきっかけ
- ・母親が息子の言動に不安を覚え、「ひょうご若年性認知症センター」に相談。センター担当者より推進員に連携依頼あり。

支援内容

- ・本人や家族の意向を確認し、対応を決定
 - ① 本人は仕事は継続したい。
 - ② 体を動かすこと、調理は得意である。
- ・家族会の開催する野菜作りに参加
- ・ジョブコーチの検討、家族支援として収納アドバイザー利用
- ・訪問看護（自立支援医療）の利用
- ・職場の上司との本人の今後につき協議
- ・障害者年金手続きへのつなぎ

残念ながら本人の職場がコロナの影響もあり閉鎖となり、本人は解雇となる。

- ・就労支援B型事業所の見学、移動支援を利用し温泉へ



- ・このケースで取り組み上で工夫したポイント
- ① 本人や家族の悩みを共有及び意向の確認
- 本人や家族の思いが異なるので、個別にアセスメントを実施。アセスメントを実施する場所を考慮（自宅・散歩を利用・家族会・畑等）
- ② とともに活動
- 一緒に活動することにより本人のできることや課題が見えてくる。
- 本人が好きなこと、やりたいことを継続できるように、答えを急がずに待つことも必要。
- （畑作業、職場への通勤同行等）
- ③ 支援機関とのつながり、協働
- チームで対応することにより、支援機関の役割理解が進み、様々なアイデアにつながる。
- ④ 現状、役割、課題の把握のための地域ケア個別会議の開催
- ⑤ 本人の職場の上司等との連携
- 仕事ぶりの確認、支援の必要性について、職場の今後の本人に対する対応について



最後に・・・

(今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い)

認知症地域支援推進員として、若年性認知症の方の支援に関して、当初の関わりは手探りであり戸惑うことも多々あった。

支援者側の「分かったつもり」「理解したつもり」での対応が本人にとっては苦痛であったり、長続きしない。

まずは本人が「何をしたいのか」その意向を確認することが大切である。そのうえで、制度上の支援機関、行政、家族会等の協働、チームでかかわることが課題解決に繋がることを経験できた。

今後も推進員としてネットワークを広げ、チームアプローチで対応することを基本に、若年性認知症の本人や家族が前向きに笑顔で生活できるようにサポートできればと思う。

